

## 地域経済の代謝を促す実務教育機能の充実を

企業や組織、ひいては都市が成長を続けていくには、既存の枠を超えた革新により新しいビジネスを生み出すことが必要である。もっとも、ゼロから新しいモノ・アイデアを生み出すのは容易ではない。時間もかかり、心理的なハードルも高い。そのため、特に人材や情報等の集積が十分ではない地方の都市や圏域では、起業により新規ビジネスを創り出す（量の強化）よりも、既存の事業や組織を変革させる（“代謝”を促す質の転換）ことで、高い生産性を維持する施策が有効となる。

ドイツでは人口規模に左右されず、高い生産性を有する中小都市が存在する。その中でも、バイエルン州にある人口約4万人の小都市・コーブルク市は、都市国家の時代から当該地域に根ざしてきた既存企業を変革することで、高い生産性と競争力を保ち続けていることが特徴だ。変革の実現にあたっては、企業の約半数の職員を再教育し、残りを新規（主にUターン）および中途人材で賄う仕組みをいかにつくれるか、そこに市の施策の重点が置かれている。

この政策の中核を担っているのは、“ホッホシューレ”と呼ばれる、コーブルク市が属するバイエルン州が設立・運営する専門職大学である。学生数は5,000人を超えており、各種研究成果をいかに実際の事業や経営に役立てていくか、というコンセプトで運用されている。そのため、ここで学べるカリキュラムは、①この都市で伝統的に培われた分野（自動車、電子、機械、金融、建築など）、②時代が要請する最先端の分野（デジタル技術、ロボティクス、バイオ）、③それらを経営として実践できる分野（経済・経営）に集約されている。特に、経済・経営の領域は、現役およびOBの経営者が教壇に立つことで、事業変革に成功してきた地域経営者の経験・ノウハウが次の世代に伝承されることになる。既存企業は、地元にいながらにして、デジタル化による産業破壊の波にも負けず、自己変革と生産性向上に必要なノウハウと経験を取得できる。

日本では、“ホッホシューレ”に相当する直接の組織はないと思われるが、その一部を担う機関は存在する。例えば、実践的・創造的技術者を養成する高等専門学校が、全国で57校存在しており、約6万人の学生が学んでいる。2019年度からは専門職大学・専門職短期大学が開校された。これらは、尖（とが）った人材や有能な技術者を育てる明確な目的を持った組織であるが、地域という視点から見ると、それぞれが半ば独立した“点”のような存在になっている感がある。むしろ、地域経済の代謝をいかに促すかという“面”の視点から、大学を含めた地域の教育・研究機関のポテンシャルを再評価し、地域の実務教育機能を担うためのエコシステムとして再編・強化することが必要であろう。今後の議論に期待したい。

社会システムコンサルティング部長  
神尾 文彦